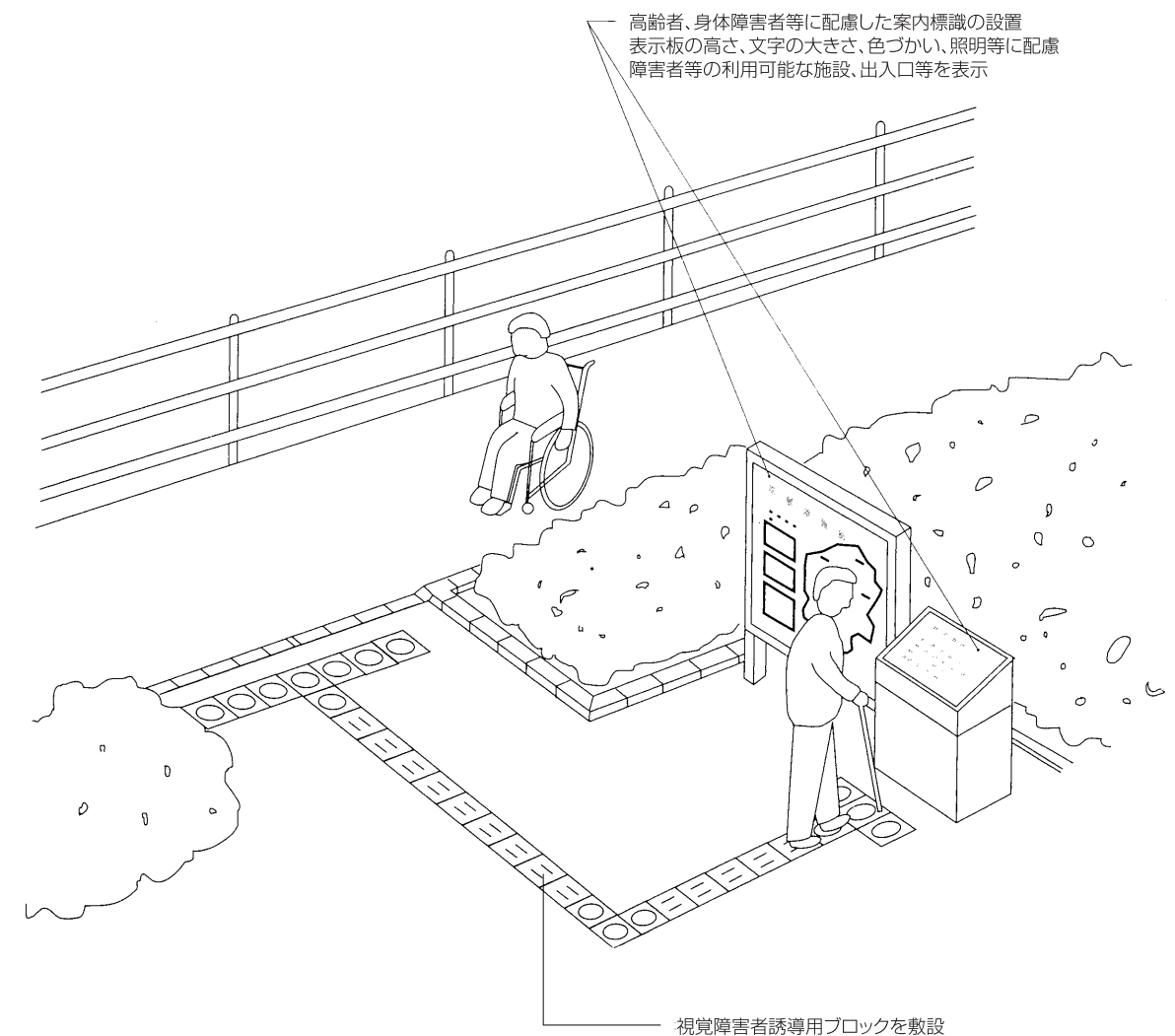


5 案内標示等

■基本的な考え方■

高齢者、身体障害者等の公園利用者に公園の利用や目的の場所までに確実に到達できるための情報を的確に伝えるように配慮する。

案内標識の整備例



整備基準	
5 案内標示等	
1	公園全体の利用に関する情報提供を行うことができる案内標示等を設置する場合においては、次に定める構造とすること。ただし、常時勤務する者により公園全体の利用に関する情報提供を行うことができる場合においては、この限りでない。
(1)	出入口、園路等、広場、便所、水飲場、ベンチ及び野外卓等の位置（車いす使用者対応便房がある場合は、その旨）その他公園の利用に必要な情報を表示すること。
(2)	文字の色を地色と明度の差の大きいものとし、又は電光掲示その他の方法により、文字を識別しやすいものとする。
(3)	必要に応じて、点字及び触知図による情報の表示を行うこと。
(4)	必要に応じて、音声により視覚障害者を案内する装置その他これに代わる装置を設けること。
2	案内標示等は、身体障害者等が確実に目的の場所に到達できるよう設置箇所、表記方法等に配慮したものとする。

整備基準の解説	
●整備の対象	案内標示等を設ける場合に園内の要所に適切に設置する。

配慮事項	
項 目	解 説
1(1)案内板の高さ	○車いす使用者の利用に配慮し、高さ130cmを標準とする。
(3)点字触知図	○案内板に点字表示、触知図を設けた場合、案内板の高さは、90～120cm程度とする。 ○公園の出入口及び園路の要所に必要に応じて案内板や説明板等を設ける。 ○公園内の園路や施設が車いす使用者にも利用できることを示す「国際シンボルマーク」を表示するとともに、駐車スペースに至るまでの誘導用の標識を設ける。 ○必要に応じて、外国語表記を併用する。